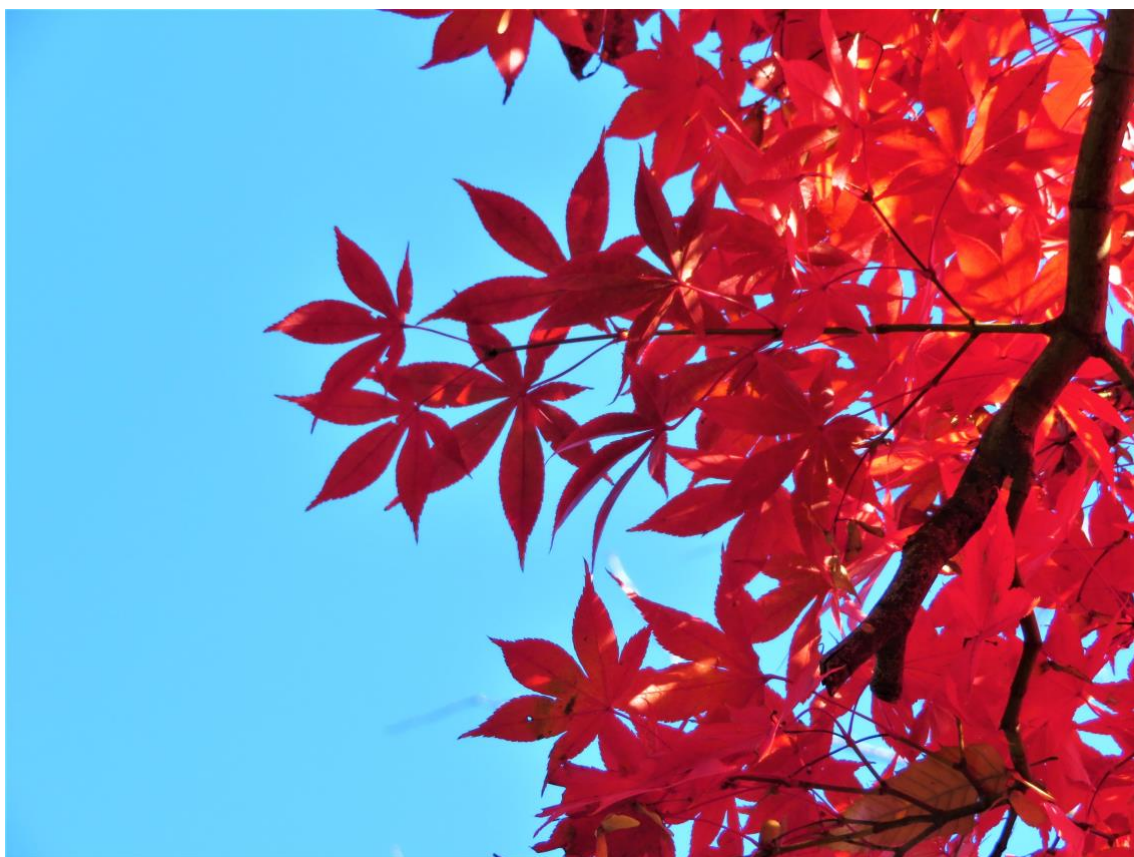


映画同好会 キネマ月報



2020年10月号（第1号）

目次

映画同好会月報発行について	真木郁夫	P2
一家三代映画好き	小西 順	P3
映画と食と人生—コミックの薦め	本田安弘	P4
映画情報	キネマ月報編集部	P5-8
映画同好会予定表	映画同好会幹事	P8
編集後記	編集局	P9

「映画同好会月報発行について」

映画同好会幹事一同
真木 郁夫（文責）

10月1日付で、映画同好会月報を発行することになりました。

映画同好会の目的のひとつとして、映画を通してより良き人間関係の構築があります。そのためには直接お会いして、飲み、食い、語ることが必要となります。ところが現状のコロナ収束状況では、ままなりません。

そこで少しでも皆様とつながりが持てますように、NETで「月報」の発行をすることになりました。

1：名前「キネマ月報」

2：発行 毎月1日

3：編集局 菅原信夫

4：内容

（1）会員の映画に関するエッセイ（毎月2名）

（2）映画情報

①封切り映画

②名画座情報

③テレビの映画情報

（3）映画同好会予定

以上のような内容でスタートしたいと思います。

有意義で、永続する月報でありますように、ぜひ皆様のお力添えをお願いいたします。

なお何かございましたら、幹事へご連絡願います。

（幹事）（敬称略）

石毛謙一、梶間順子、小西順、菅原信夫、鈴木謙一、横山洋、真木郁夫

（編集局）

菅原信夫 sugahara@directforce.org

一家三代映画好き？

小西 順

映画についての最も古い記憶は親父に連れて行ってもらって見た「七人の侍」（1954年）。この映画が話題になると思い出すのは、襲ってくる野武士の群れに農民たちが竹やりで闘う壮絶なシーンもさることながら、映画帰りの薄暗い夜道、自転車の荷台から見たペダルを漕いで揺れる親父の背中。小学3年生のことです。

親父は銀行マンくずれの地方企業勤務の貧乏サラリーマンでしたが結構な趣味人で、よくクラシックのレコードを蓄音機で聞いていました。また、映画にも関心があったようで幼い私をよく映画に連れて行ってくれました。「七人の侍」のほか、「白い馬」（1953年）・「赤い風船」（1956年）・「砂漠は生きている」（1953年 ディズニー初のドキュメンタリー）などに連れて行ってもらったのを鮮明に覚えています。後で知ったのですが、この「白い馬」「赤い風船」は、自身の息子を主人公にして撮った「素晴らしい風船旅行」（1960年）で名高いA・ラモリスの初期の短編作品で珠玉の芸術映画と評されています。

この親父の映画好きが私にも遺伝・拡大したようで、神戸での中高校生時代はカトリック校の校則を破っての封切映画館通い、大学時代は映画研究会を中心に ATG シアター通い。社会人になってからは多忙や海外駐在で映画を見る機会はぐんとへったものの、合成樹脂業界での仕事に映画趣味を融合させてビデオレンタル企業の雄、カルチャー・コンビニエンス・クラブ（＝TSUTAYA）と合併で作ったビデオ販売会社への出向、更には小学館などのアニメ映画のビデオ化権の欧米輸出などにも手を染めました。また、家ではNHKの衛星映画劇場で放映される話題作を8ミリビデオにエアチェックし、リタイア後に見るために「映像コレクション」を構築するなど常人から見れば軌道はずれた映画好きの我が人生でした。私には息子が二人おりますが、長男のほうは、学生時代、密かに鑑賞していた私の「映像コレクション」がきっかけになったようで、今では大の映画好き。映画館での鑑賞に加えてTSUTAYAでせっせとDVDを借りてきては大いに楽しんでいます。映画好きの血は脈々と流れるものようです。 /以上

映画と食と人生—コミックの薦め

本田安弘

映画が人間の生きざまを描くものであれば、当然食べ物や料理が何らかの形で出てくる。食べ物を通して人生を語り、社会を見つめる作品も多い。

映画と食べ物を主人公の日常と重ね合わせて、描いたコミックがある。福丸やすこ作「シネマごはん」（全1巻 少年画報社）だ。絵は細部の描写が巧く、ソフトタッチで愛らしい。亡くなったじいちゃん譲りの映画好き女子・町野あかりが主人公。映画に登場する美味しそうな食べ物を食べ歩くのが大好き。

食べ物と映画の味わいを巧く重ねて、主人公の人生のあれこれに思いが広がる。映画と食べ物から得たものが、自己の成長の糧にもなっていることを巧く表現している。14編の連作構成である。その一部を紹介しよう。

「幸福の黄色いハンカチ」、刑務所を出所した高倉健が食堂に入り、ビールと醤油ラーメンとカツ丼を注文。感慨を込めたビールの飲みっぷりが実にいい。「いい映画ってのは、人生を美味しくしてくれる」と、じいちゃんの言葉を思い出す。「タンポポ」、あかりちゃん、大友柳太郎の“ラーメンの作法”をまねてみる。そして自由に生きる楽しさを知る。

「かもめ食堂」はヘルシンキの日本食堂を思い出しながら、焼きり、鮭、梅のおにぎりと味噌汁を食す。まさにハートフル・フードだ。風邪気味のあかりちゃんに、アパートの家主さんが鍋焼きうどんを差し入れてくれる。熱々のうどんを食べながら「耳をすませば」を思い出す。

「しあわせのかおり」は中華料理の魅力満載。中でも、“トマト卵炒め”が絶品。調理（揚げる、炒める、切る、煮る）シーンは音や動きが面白いアクション表現になる。

小津安二郎監督の「秋刀魚の味」では、佐田啓二のとんかつを食べる場面が描かれるが、秋刀魚は出てこない。小津といえば、「お茶漬の味」も。

映画を見て食欲が湧き、食べ物を見て映画を思い出し、もう一度その感慨に浸ってみる。映画はいろいろ楽しませてくれます。 /以上

映画情報

【話題の封切り映画】

(今回は情報が会員から提供されませんでしたので、編集局推薦として9月10月封切り作品のうち、前評判の高いものをご紹介します。)

①TENET (9/18-) (東宝系)

ダンケルクのクリストファー・ノーラン監督作品、時間の逆行という実験的映画。

②ファイオレット・エヴァーガーデン (9/18-) (東宝、東急系)

悲劇の京アニ制作。亡くなったクリエイターに向けたメッセージという解釈もある作品。

③蒲田前奏曲 (9/25-) (名画座系)

4名の若手監督による連作。今後の日本の映画を引っ張る監督がこの中にいるか？

④スパイの妻 (10/16-) (新宿ピカデリー他)

第77回ベネチア国際映画祭コンペ部門で最優秀監督賞受賞作品。本年6月NHK放映済み(テレビ版)

⑤ナイル殺人事件 (10/23-) (東宝系)

アガサ・クリスティー生誕130周年を記念して制作された極上のミステリーシネマ。主演のポアロをケネス・ブラナー監督自身が演ずるのも興味深い。

【NHK-BSP シネマ放映予定 10月分】

10月の予定表 <https://www.nhk.or.jp/bscinema/calendar.html?next>

(幹事推薦作品)

1:「おしゃれ泥棒」(1966年) 10月6日(火) 13時～

ウィリアム・ワイラー監督、主演オードリー・ヘップバーン、

ピーター・オトウールのロマンティック コメディ

2:「エデンの東」(1955年) 10月7日(水) 13時～

エリア・カザン監督、主演ジェームズ・ディーン

主題の親子、兄弟、男女の愛情問題は、現在でも通用する永遠のテーマである。兄弟の葛藤は、旧約聖書の「カインとアベル」（創世記第4章）よりとられた。アカデミー賞監督賞、主演男優賞、助演女優賞、脚色賞でノミネートされたが、ジョー・ヴン・フリートが助演女優賞を受賞。

3：「真昼の死闘」（1970年）10月9日（金）13時～
ドン・シーゲル監督、クリント・イーストウッド主演の西部劇？マカロニウエスタン？

4：「パリの恋人」（1957年）10月10日（土）23時～
スタンリー・ドネン監督、主演オードリー・ヘップバーン、フレッド・アステア。パリを舞台にしたラブストーリー。ミュージカル映画。
アカデミー賞 脚本、撮影、美術、衣装デザイン賞 ノミネート

5：「フレンチ・コネクション」（1971年）10月13日（火）13時～
ウイリアム・フリードキン監督、主演ジーン・ハックマン
麻薬取締捜査官とギャングの戦い。
アカデミー賞 作品、監督、主演男優、脚色、編集の各賞受賞。

6：「愛情物語」（1956年）10月14日（水）13時～
監督 ジョージ・シドニー
主演 タイロン・パワー、キム・ノヴァク
実在のピアニスト エディ・デューチンの愛情物語。
主題曲はショパンのノクターン 作品9の2をアレンジしたもので、映画ではカーメン・キャバレロが演奏。

7：「ボディガード」（1992年）10月19日（月）13時～
監督 ミック・ジャクソン
主演ケビン・コスナー、ホイットニー・ヒューストンのラブ・ストーリー。
ホイットニー・ヒューストンの歌声、スタイル、目の美しさに魅了される。
彼女は、残念ながら、2012年に急死した。
主題歌「オールウエイズ ラブ ユー」は全世界で4200万枚の大ヒット曲となった。

映画の中で黒沢明の「用心棒」の1シーンが使われている。

8：「慕情」（1955年）10月21日（水）13時～

監督 ヘンリー キング

主演 ウィリアム・ホールデン、ジエニファ・ジョーンズ

香港を舞台にした有名なラブストーリー。

アカデミー賞 歌曲賞を受賞、歌唱はナット・キング・コール。

9：「カサブランカ」（1942年）10月28日（水）13時～

監督 マイケル・カーチス

男の美学たっぷりのハンフリー・ボガードと世界一の美女 イングリッド・バーグマンの大人の恋の物語。戦時中であるので、反ナチ、反戦が色濃くでている。

クラブでドイツ将校が歌う「ラインの守り」に対して、フランス国歌「ラ・マルセイーズ」を客が全員起立して歌うシーンは感動的である。

* アメリカ映画ベスト100位の2位

* アメリカ映画主題歌ベスト100位の2位「時の過ぎゆくままに」

* アメリカ映画名セリフベスト100位の5位「君の瞳に乾杯！」

* アカデミー賞作品賞、監督賞、脚色賞 受賞

第二次大戦中にこのような映画がアメリカで作られていたとは驚きである。

この余裕のあるアメリカに日本が敗けるのは当然だ。

必見の映画である。

【名画座情報 10月】 今後、本欄では、大手シネコンで上映されるものは対象外とし、小型館、二流館（失礼！）で紹介される小予算映画や古い名作を掘り出し、お伝えします。

① <オン・ザ・ロック> ソフィア・ Coppola監督、ビル・マーレイ主演、10/2より新宿武蔵野館にてロードショー。日本以外で好評を博した同じCoppola+マーレイの<ロスト・イン・トランスレーション>（2003）を彷彿させる。

② <ちむぐりさ：菜の花の沖縄日記> 沖縄テレビ開局60周年記念作品。10/10よりポレポレ東中野にて再上映。沖縄の日常を力まずに描く、平良いずみ監督作品。

③ <おもかげ> 2019年アカデミー賞短編実写映画部門にノミネートされた Madre の口ド

リゴ・ソロゴイエン監督作品、玄人評が高い。10/23より銀座シネスイッチにてロードショー。
④ <靴ひも> 2018年イスラエル映画。同年の東京国際映画祭招待作品。発達障害の息子とその父親の共同生活を描く。10/17より渋谷イメージフォーラムにてロードショー。
⑤ <氷壁> 1958年大映東京作品。井上靖原作のナイロンザイル切断事件に材を得たベストセラーを新藤兼人脚本、増村保造監督、山本富士子・野添ひとみ主演で映画化。10/16まで、神保町シアターで開催されている「スクリーンで楽しむ山岳映画の世界」（山と溪谷社創業90周年記念事業）で上映中。他にも<黒い画集> <マークスの山> <剣岳> など、山岳映画の名作を一挙上映中。

映画同好会予定表

* 10月12日18時

映画同好会名画鑑賞会 リアル会 <男はつらいよ お帰り寅さん>

場所： 青山学院校友会アイビーホールとなり、レストランフィリア
03-3409-8187

* 10月16日16時-18時

映画同好会 第3回 ZOOM 会

会員の方は、どなたでも参加できるよう、全員のメルアドに前日 URL を配信します。
テーマは、全頁 NHK-BSP シネマ推薦作品のうち、次の3本の課題映画の感想評価。
①フレンチコネクション ②愛情物語 ③おしゃれ泥棒

* 11月10日18時

映画同好会名画鑑賞会 リアル会 <将軍たちの夜>

場所： 青山学院校友会アイビーホールとなり、レストランフィリア
03-3409-8187

編集後記

本年9月、鎌倉では小津安二郎にまつわるイベントが市の2施設を連携し行われました。川喜多映画記念館では、小津監督+原節子の代表作「秋刀魚の味」「彼岸花」「麦秋」が上映され、鎌倉文学館では小津監督にゆかりのある品々が、監督自身の書画とともに展示されました。展示品には野田文吾による脚本など、なかなか貴重な資料もありました。映像と文章絵画、映画はまさに総合芸術であることを示す鎌倉市の企画であり、松竹大船撮影所が消えた鎌倉に細々と映画の伝統が残っていることを再認識しました。時に、やはり鎌倉を捨て都心に戻った野村総合研究所の跡地を再利用する鎌倉市の企画が浮上し、DFからも地域会員が有志として企画作成に協力していますが、その中には映画同好会からも平尾さん、吉崎さん、菅原と3名が参加しています。鎌倉映画村構想を含めて市への提案を作成中ですが、映画同好会が映画文化の復興に寄与できたら、本当に素敵な話です。（編集局 菅原信夫）